

イベント情報 Vol.2

2012年6月28日
株式会社モビリティランド
鈴鹿サーキット

鈴鹿サーキット開場50周年を記念する「アニバーサリーデー」の準備が進み モータースポーツの歴史を再現する多くのマシン、ライダー&ドライバーの参加が決定

9月1日(土)～2日(日)に鈴鹿サーキット(三重県)にて開催される「鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー」に参加するライダー&ドライバーや、デモ走行を行うマシンなどが順次決定しています。「鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー」では、日本の近代モータースポーツの歴史を再現し、'60年代から年代ごとのエポックメイキングなレースに登場した伝説のマシンや、ライダー&ドライバーが時を越えて鈴鹿サーキットに登場する壮大なイベントが予定されています。そこに登場するかつての名ライダー&ドライバーや伝説を作り上げたマシンが、イベント本番に向け順次決まってきました。



大会名称 (英文表記)	鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー SUZUKA CIRCUIT 50th Anniversary Day
主催	株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット
会場	鈴鹿サーキット 国際レーシングコース
日程	2012年9月1日(土)～2日(日)
入場料金	鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデーは ゆうえんち入園料でご入場いただけます 鈴鹿サーキット特設ウェブサイトにて特別無料招待券を ダウンロードいただけます

■すでに発表されている参加ライダー&ドライバー

 <p>ジェームス・アーサー・レッドマン (イギリス) '62年世界選手権 250cc、350cc 両クラスチャンピオン。 ホンダワークスライダー</p>	 <p>ウェイン・レイニー (アメリカ) '90年から3年間チームロバーツ・ ヤマハでタイトルを獲得</p>
 <p>ケニー・ロバーツ (アメリカ) '78年から3年連続WGPのチャンピ オンをヤマハワークスライダーとして 獲得</p>	 <p>アレックスandro・ナニーニ (イタリア) '89年F1日本GPで優勝。その後 '97年にはFIA-GTでも鈴鹿で勝利を飾る</p>
 <p>エディ・ローソン (アメリカ) '84年、'86年、'88年、'89年の WGPチャンピオン</p>	

特設サイトから特別無料招待券がダウンロードできる！

「鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー」に無料で入場することができる特別無料招待券を特設サイトからダウンロードできます。

<http://www.suzukacircuit.jp/50anniversary/>

フレディ・スペンサーの来場が決定

'80年代前半、その圧倒的な速さから“ファスト フレディ”の異名をとり、'85年には史上初となるWGP 500ccクラス、250ccクラスのダブルタイトルを獲得するなど、グランプリシーンに輝かしい記録と記憶を残したフレディ・スペンサー氏の来日が決定いたしました。

すでに来日が発表されているケニー・ロバーツ氏とは、現役時代に壮絶なタイトル争いを繰りひろげたライバル関係にあり、“キング ケニー VS ファスト フレディ”の戦いは、当時のオートバイファンにとって注目の的であり、ともに憧れの存在でした。

ケニー・ロバーツ、エディ・ローソン、ウェイン・レイニーに加え、このたびのフレディ・スペンサー来日決定により、黄金時代とも言える'80年代グランプリシーンの主役が鈴鹿に勢ぞろいすることとなりました。

鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデーは、オートバイファンにとって見逃すことのできないイベントになります。



■フレディ・スペンサー 主な経歴

1961年12月20日生まれ
アメリカ・ルイジアナ州出身

- 1983年 ロードレース世界選手権 (WGP)
500ccクラスシリーズチャンピオン
- 1985年 ロードレース世界選手権 (WGP)
500cc、250cc両クラスのシリーズチャンピオン
- 1992年 鈴鹿8耐
予選3位、決勝4位

「鈴鹿50周年アニバーサリーデーを楽しみにしている日本のファンの皆さん、こんにちは。皆さんと同じく私も、このイベントをとっても楽しみにしています。私のレースキャリアの中でも鈴鹿は大変意味のあったサーキットですし、またそこに戻れる機会ができたことを嬉しく思います。

「'80年代に私が乗ったグランプリマシンの何台かに乗れることはとても楽しい時となるでしょう。ぜひ鈴鹿でお会いしましょう」

コーク・バリントン、グレース・クロスビーの来場決定！

'70年代から'80年代にかけ、カワサキのワークスライダーとして大活躍し、ライムグリーンのマシンでGPシーンを席卷したコーク・バリントン氏。また、'80年にヨシムラスズキのライダーとして鈴鹿8耐を制するなど、日本でもファンの多いグレース・クロスビー氏の来場が決定いたしました。

■コーク・バリントン 主な経歴

1951年4月10日生まれ
南アフリカ出身

1976年 WGP デビュー

1978年 1979年 カワサキワークスとして WGP 250cc、
350cc 両クラスにてチャンピオンを獲得

1986年 鈴鹿8耐 決勝8位 (ホンダ VFR750)

1988年 鈴鹿8耐 決勝6位 (カワサキ ZXR-7)



「私にとって鈴鹿サーキットは、世界中でレースをしてきた中でも 非常に興味深く面白いサーキットであったと記憶しています。それは、ただ難易度が高く非常にテクニカルなサーキットであり、チャレンジのし甲斐があったというだけでなく、このサーキットは日本の国の輝かしいモーターサイクル・レーシングの伝統を通じ、その進化・成長にも大きく関わってきた、名だたるサーキットであるからです。

私の中で鈴鹿サーキットの50年史を振り返ったとき、私には何より先にも景色やサウンド(音)が蘇ってきます。'88年にも再びカワサキで鈴鹿8耐に参戦したのち、まもなく私は引退をしました。自分の大好きなレースのひとつである鈴鹿8耐で、自分のキャリアやカワサキのライダーとして幕を閉じることができたのは、とても幸せでした。

このたび、鈴鹿サーキットの50周年記念に際し、モビリティランドよりご招待を受けたことを大変嬉しく思っています。鈴鹿で多くのレースファンに会い、盛大な雰囲気の中でコース上を走る機会を楽しみたいと思います。このお祝いの場に同席し、皆様とご一緒できることを光栄に思います」

■グレース・クロスビー 主な経歴

1955年生まれ
ニュージーランド出身

1980年 マン島TTレース優勝、鈴鹿8耐にヨシムラ・スズキから出場し優勝

1982年 WGPにヤマハから参戦しシリーズ2位



「まずは、鈴鹿の国際レーシングサーキットの関係者、スタッフの皆様にお祝いを申し上げたいと思います。また、鈴鹿市の皆様も、長きに渡り、多目的利用が可能なこの素晴らしい、国際基準の施設を地元の皆様が常にサポートされ保たれてきたことを称えたいと思います。

私の鈴鹿における思い出のベスト1は1980年の鈴鹿8時間耐久レースです。200周を終えた時点で私とエディ・ローソンの間には40秒差しかありませんでした。その際、私のチームメイトはウェス・クーリーだったのですが、実は彼は持病があったため、その分私があつた猛烈に暑い条件の中、レースの6割を担当することになりました。そして優勝し、ポップ吉村に素晴らしい結果を贈ることができました。10万人を超える大観衆の前で、レース後はもちろんクタクタでしたが、それでも祝って楽しまなくては！ という気持ちが強かったことを覚えています。また、400メートルほどしか離れていないサーキットホテルに辿りつくまで、2時間ほどかかったことも記憶にあります。

そんな鈴鹿での出来事が、自分の一生の思い出になっているのです」

「第2回日本のモータースポーツを創って来た人達の集い」 鈴鹿サーキット開場 50 周年祝賀会の実施が決定

選手、監督、エンジニア、オフィシャル、メディアなど、あらゆる立場で日本のモータースポーツの歴史を創り上げてきた人達による集まり、「日本のモータースポーツを創って来た人達の集い」が、アニバーサリーデーの開催に併せて、鈴鹿サーキットで開場 50 周年を祝う祝賀会を開催いたします。

往年の名選手はもちろん、様々な分野で活躍した人たちが一同に会します。

当時の迫力を再現するデモンストレーション走行やトークショーなどのイベントに出演いただく予定です。

■開催日：2012 年 9 月 2 日（日）

■会場：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース ピットビル 2F ホスピタリティラウンジ

■発起人（50 音順：敬称略）

秋鹿方彦、饗庭喜昭、赤井邦彦、浅井啓祐、浅井延美、浅岡重輝、浅田義友、浅海敏夫、阿部光雄、五百部徳雄、生沢徹、板橋康行、市嶋樹、井上勇、入交雪子、宇田川武良、大岩湛矣、大河原一、大久保力、大林誠二、奥村裕、尾関一、小野昌朗、加治次郎、糟野雅治、片山右京、勝間田聡、勝股優、金子豊、兼崎忠祿、神谷誠二郎、神谷忠、亀山清隆、河崎裕之、菅野光一、北川成人、北野元、鬼頭正人、木引繁雄、木村昌夫、日下孟、日下部保雄、黒沢元治、桑島正美、桑山充、小島松久、小林稔、古山忠明、近藤幾夫、近藤進治、近藤真彦、酒井雅康、佐藤健二、佐藤順造、佐藤正幸、清水和子、すがやみつる、菅家安智、杉本五十洋、鈴木亜久里、鈴木脩己、鈴木修二、鈴木隆史、鈴木忠男、鈴木啓道、鈴木雅雄、関根基司、千石清一、平忠彦、多賀弘明、高桑元、高桑正記、高橋国光、高橋二郎、高橋利明、高橋晴邦、館信秀、館正信、田中弘、ダニエル・デマレ、谷口尚己、田村圭二、田村三夫、柘植和廣、辻本征一郎、土屋一正、津々見友彦、坪内隆直、東福寺保雄、戸田幸男、富永博一、内藤正典、中嶋悟、中西寛治、成島弘、難波靖治、能勢昇一良、間正弘、長谷見昌弘、馬場忠雄、林将一、林みのる、原富治雄、日置和夫、菱木哲哉、福士克二、福原広昌、福山英朗、藤井璋美、藤澤博幸、藤田直廣、鮎子田寛、古谷重治、星島浩、星野一義、細谷四方洋、松浦賢、松本恵二、見崎清志、水谷勝、水野雅男、三井平八郎、三井晃、南洋一、宮城光、宮城久夫、三好正巳、毛利良一、本橋明泰、森脇南海子、森脇護、森脇基恭、安井一秀、安松幹夫、柳田春人、矢橋昇、山口京一、山下護祐、山梨一成、由良拓也、吉田友明、吉村太一、吉村征之、淀野泰弘、若林太市、渡辺保、和田将宏

■お問い合わせ

「第2回日本のモータースポーツを創って来た人達の集い」についてのお問い合わせは

「日本のモータースポーツを創って来た人達の集い」事務局
E-Mail : pioneers-jms@mbr.nifty.com

伝説のマシンの展示・走行車両が決定！

「鈴鹿サーキット 50 周年アニバーサリーデー」のメインイベントのひとつである往年のマシンのデモ走行に参加する車両が続々決定しています。'60 年代に世界と戦った 2 輪・4 輪のマシンを始め、それぞれの年代を代表する名マシンの多くが鈴鹿に集結します。

※参加マシン、デモランスケジュールは決定し次第ご案内いたします。

■参加が決まった主なマシン

1960 年代

1962 年鈴鹿サーキット開場と共に開催された全日本ロードレースを皮切りに日本における本格的レースが幕を開ける。翌'63 年には、2 輪世界選手権、4 輪日本 GP の開催を経てモータースポーツが盛り上がりを見せる。



ホンダ RC164



ホンダ 4RC146



ホンダ RA300



ホンダ RA272

《2 輪》

'63 年 ホンダ RC164	ジム・レッドマンにより 1963 年の世界選手権日本グランプリロードレースで優勝した記念すべきマシン
'65 年 ホンダ 4RC146	GP125cc クラスを席卷した 4 気筒の最終モデル
'66 年 ホンダ RC116	世界選手権 50cc クラスでタイトルを獲得し史上初の 5 クラス制覇の一翼を担う

《4 輪》

'64 年 ポルシェ 904 GTS	第 2 回日本グランプリにて式場壮吉がドライブし、生沢徹が駆る日産スカイライン GT と激闘を繰り広げた伝説のマシン
'65 年 ホンダ RA272	ホンダ F1 の初優勝（'65 年メキシコ GP）を成し遂げたマシン。 優勝ドライバーはリッチー・ギンサー（走行車両はロニー・バックナム車）
'66 年 ポルシェカレラ 6	第 4 回日本グランプリにて生沢徹がドライブ。高橋国光のニッサン R380 との激闘を繰り広げたマシン
'67 年 ホンダ RA300	デビューとなったイタリア GP でジョン・サーティースが優勝を成し遂げ、ホンダ F1 の 2 勝目を挙げた
'68 年 ホンダ S800	鈴鹿 12 時間自動車レース GT-1 クラス優勝マシン
'68 年 ホンダ RA301	RA300 を改良し'68 年第 2 戦スペイン GP から実戦投入された F1 マシン

1970年代

日本全体を襲ったオイルショックによりモータースポーツは一時冬の時代を迎えた。自動車メーカーのレースからの撤退など逆風が強く吹き荒れたが、モータースポーツへの情熱を失わない人々によって新たなチームが生まれ、「グレート20」に代表される新たなレースも生まれた。

《2輪》

'73年 ホンダ CB750Racer	初めてのトリコロールカラーで'73年のデイトナ 200 マイルに出場し 6 位入賞を果たした
'74年 ホンダ CB500R	市販車 CB500FOUR をベースに、2バルブから3バルブ（吸気2、排気1）に変更し、ボアアップを施したエンジンを搭載。日本グランプリ ロードレース第6戦鈴鹿に参戦し、セニア 750cc クラス総合 3 位を獲得した（No.3 隅谷守男）

1980年代

'80年代に入りモータースポーツは徐々に活気を取り戻し、2輪はWGPでの日本勢の活躍、4輪は鈴鹿でのF1GP開催をきっかけに爆発的なブームが巻き起こる。バブル経済の影響も大きく、日本におけるモータースポーツは一気に盛り上がりを見せた。



ホンダ NSR500



ウィリアムズ FW11



マクラーレン MP4/4



ロータス 100T



マクラーレン MP4/5

《2輪》

'80年 スズキ GS1000R	ヨシムラジャパンの創業者である“POP”こと吉村秀雄のチューニングにより、ホンダワークス勢を倒し、'80年の鈴鹿 8 耐を制した
'84年 ホンダ NSR500	3気筒のNS500に代わる主力マシンとして開発。4本のチャンバーはダミータンク内にあるなど、革新的な車体構成だった

《4輪》

'86年 ウィリアムズ FW11	ホンダ RA166 エンジンを搭載。ピケ&マンセルのコンビでコンストラクタータイトルを獲得
'88年 マクラーレン MP4/4	プロスト・セナによって年間16戦中15勝という圧倒的な強さをみせた伝説のマシン
'88年 ロータス 100T	ピケ&中嶋のコンビが駆ったホンダエンジン搭載マシン。最高位はピケの3位
'89年 マクラーレン MP4/5	自然吸気の3.5リッターV10で16戦10勝を挙げ、この年、A.プロストがチャンピオンとなった

1990年代以降

'90年代前半に襲ったバブル崩壊によってモータースポーツの盛り上がりも弱まったが、'90年代後半からホンダ、トヨタのF1参戦など海外での日本メーカーの活躍が目立つ。また、国内では新たに始まったGT選手権が人気を博した。



ホンダ NSR500



マツダ 787B

《2輪》

'97年	ホンダ NSR250	世界グランプリのGP250クラスで、ホンダにとって同クラスでは5年ぶりとなるタイトルをもたらした。シーズン終了間際には全日本にも登場した
'97年	ホンダ NSR500	ミック・ドゥーハン選手が世界グランプリ史上初の500クラス4連覇を果たしたマシン
'01年	ホンダ NSR250	“天才ライダー”加藤大治郎によって、この年、世界グランプリ250クラスのチャンピオンを獲得する。年間11勝は当時の最多勝利記録であった
'02年	ホンダ NSR500	'84年に導入されてから18年の間、常にグランプリシーンの中心にいたNSR500。4サイクルへの完全移行を翌年に控えたNSR500のラストモデル

《4輪》

'92年	マツダ 787B	日本メーカー唯一のル・マン24時間優勝マシン。ロータリーエンジン搭載
------	----------	------------------------------------

※参加マシンおよび走行予定は変更となる場合がございます。

タイムトリップパーキング

懐かしの名車を大募集！ 思い出になるパレードランに参加しよう！

『鈴鹿サーキット 50周年アニバーサリーデー』では、パドックや GP スクエアなどに懐かしの旧車・名車を展示し、ご来場の皆様に観て楽しんでいただく「タイムトリップパーキング」を実施いたします。モータースポーツだけではなく、日本のモータリゼーションの歴史をサーキット内に再現する特別企画を皆様と一緒に創り上げます。またこれらの車両によるパレードランも行う予定です。

参加していただく車両は一般の皆様から募集いたします。下記のご案内をご覧ください、多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

【参加車両募集のご案内】

■募集車両

各年代に生産された 2 輪車・4 輪車

'60年代：2 輪 4 輪各 50 台

'70年代：2 輪 4 輪各 50 台

'80年代：2 輪 4 輪各 50 台

■参加条件

9月1日（土）、2日（日）のいずれか、もしくは両日において、8:30～18:00の間、指定エリアに駐車していただける方。

また極力、自走にて鈴鹿サーキットまで来場していただける方を募集いたします。やむを得ず積載車で来場される場合は別途ご相談に応じます。

■参加特典

- ①GP スクエアイベント会場または、レーシングコース内パドックに駐車していただき、多くの来場のお客様に、オーナー様の車両をご覧ください。
- ②各日1回、レーシングコースパレードに参加していただけます。（先導車両付きで走行スピードは、60km程度）
- ③50周年アニバーサリーデー記念タイムトリップパーキング記念グッズ

■参加料金

5,000 円（イベント入場料金、駐車料金、パレード走行費用、記念グッズ含む）
※両日、単日参加ともに共通料金

■募集〆切

2012年7月20日（金）23:59

■申込み方法

鈴鹿サーキットホームページ 50周年アニバーサリーデー タイムトリップパーキング応募専用フォームよりお申込みください。

■参加車両の決定

ご応募いただいた中から審査の上、参加車両を決定いたします。
審査選考の結果は、2012年7月中にお知らせいたします。

